



ALPS 処理水希釈放出設備 現地確認結果 報告書(概要)

確認年月日	令和4年12月19日(月)	確認目的	異常発生時の安全確保(要求事項⑥関係)	
確認箇所	5・6号機敷地護岸ヤード			
確認設備	<input type="checkbox"/> 測定・確認用設備	<input type="checkbox"/> 移送設備	<input type="checkbox"/> 希釈設備	<input checked="" type="checkbox"/> その他
確認結果	<p>放水トンネルの掘削作業中に発生した異常時に対応するための訓練の実施状況を確認した。訓練は、規制庁現地検査官、緊急医療室救急救命士、東京電力職員の立ち会いの下、実施された。</p> <p>(1) 待避訓練</p> <p>トンネルの掘削作業中、大規模な地震・津波等の自然災害が発生したことを想定し、トンネル及び放水立坑から速やかに待避する訓練が実施された。(写真1)</p> <p>掘削途中のトンネルの先端(立坑から約800m)で待避指示を受けた作業員が、点呼を完了するまで7分36秒を要した。</p> <p>(2) 初期消火訓練</p> <p>トンネルの掘削作業中、掘削するための設備から出火したことを想定し、初期消火訓練が実施された。</p> <p>発煙の発生を通報後、作業員が直ちに簡易防災マスクを装着、消火器による初期消火を実施していた。</p> <p>(3) 負傷者搬送訓練</p> <p>トンネル掘削作業中、災害により歩行困難者が発生し、負傷者を地上まで搬送する訓練が実施された。(写真2)</p> <p>負傷者を専用のバスケットに乗せ、地上までクレーンを用いて揚上、搬送を行っていた。</p>			
				
<p>(写真1) 立坑下部から地上への待避状況</p>		<p>(写真2) 立坑下部からの負傷者の揚上</p>		
<p>【東京電力からの聴取内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 負傷者のクレーンによる揚上については、その可否について事前に労基に相談した。バスケットは既製品を改造し、四方に手摺りを設置した。 簡易防災マスクは、切羽付近に4個、バッテリーロコに2個、立坑下部に4個設置している。トンネル内で作業する人は、4～5人であり、数は十分と考えている。 酸素呼吸器2個を配備しており、火災以外にも酸素欠乏や有毒ガスの発生にも対応が可能。呼吸可能時間は1時間以上。 				